

# 漂着物編

ここでは、漂着物調査に出かけるにあたっての手順や、調査方法などについて紹介します。



## 漂着物ってどんなもの？

海岸に流れ着いたものを「漂着物」といいます。漂着物には、「人間が作ったもの」と「自然のもの」の2種類があります。

「人間が作ったもの」は、川に捨てられて流れ着いたものや海辺でポイ捨てされたもの、船から投げ捨てられたものなどです。外国から流れ着くものもあります。

「人間が作ったもの」は、水中や海底、浜辺などいろいろな場所で生きものに影響を及ぼしており、被害も出ています。



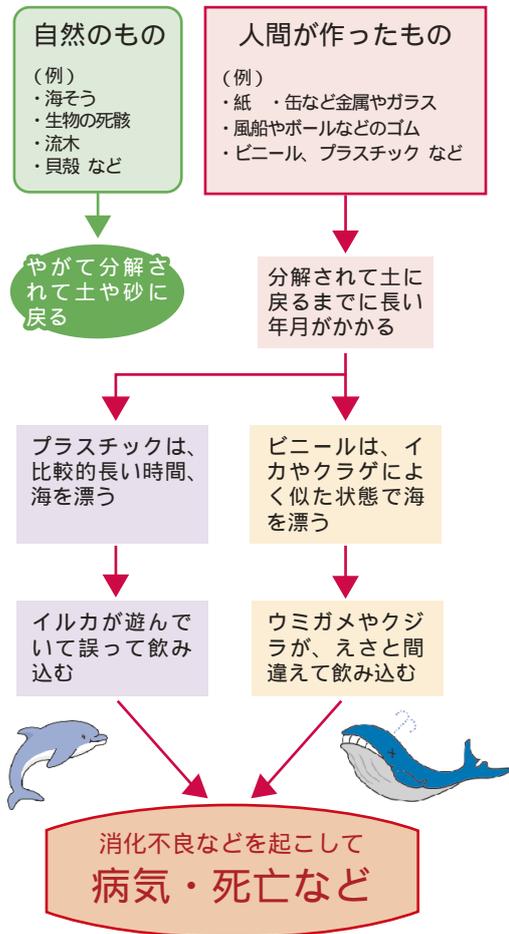
漂着した人工物

「自然のもの」は海藻や貝殻、枯れ木などです。

例えば、ハマダンゴムシは、アマモ(海藻)が大好きで、夜になると活発に活動します。



「自然のもの」は浜辺の生きものの大事な食料なのです。



# 準備をしよう



生物調査と同様に、調査に出かけるための準備をしましょう。5ページから掲載している「調査の流れ」に従って調査計画を立てたら、具体的な出発準備をします。

ここでは、漂着物調査に関する準備（チェック項目）について紹介します。

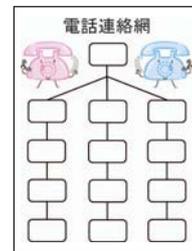
## 服装は？



- ◆**日差しと暑さ対策**  
帽子をかぶる、首にタオルをまく  
水筒を持っていく
- ◆**安全対策**  
長袖、長ズボン、手袋  
長靴か靴をはく(サンダルはダメ!)  
半袖、半ズボンは日に焼けるので  
お勧めできません。
- ◆**その他**  
着替え、ビニール袋、雨具(カサと  
カップは両方あると便利です)

## 連絡体制は？

### 緊急連絡網を作る



運営スタッフの連絡網を作り、雨天などの時に円滑に連絡できるようにしましょう。

### 連絡体制図を作る

連絡網とは別に、当日必要な連絡体制図を作りましょう。  
万が一の事故に備えて、最寄りの救急病院や警察署、保険会社などの連絡先をまとめたものを作っておきましょう。

## 準備物は？

**ピンセット**  
ごみを収集する時に使います。火ばさみなども使います。

**ゴミ袋**

○**採集用**  
参加者が持参すると良いでしょう。買い物袋などを利用し、多めに準備します。

○**分別用**  
各市町で指定された袋を用意します。下見で見たごみの量よりも少し多めに準備しましょう。

**バット**

採集したごみを分別する時に使います。大きめのトレーやお盆で代用できます。

**救急箱（緊急用）**

万が一、けがなどをした時に使います。あくまでも応急処置なので、すぐに病院に行きましょう。

**バインダー**

記録用紙をはさみます。記録用紙は44・45ページの資料をコピーして使います。

# 調査方法

漂着物の調査は、調べる範囲を決めて、打ち上げられている漂着物を全て拾い、「どんなものが」「どのくらい」あったのかを調べるというものです。

## 手順は？



- ①調査する海岸（砂浜）に数人でグループになり、両手を広げた間隔で立ちます。この範囲を調査します。波打ち際に向かって、調査範囲のごみを拾っていきます。およそ、1時間30分程度は必要です。
- ②ごみを種類別に分け、それぞれ個数を数えて記録します。何が多かったのか、特徴的なごみは何かなど分析しましょう。
- ③集めたごみは全て分別し、指定された場所へ置きます。

## 分類の仕方

- ①まずは素材別に分けます  
→記録用紙を参考にして、素材ごとに大まかに分けていきます。
- ②次に製品別に分けます  
→製品別に分けていきます。  
この時、一度にいろいろな素材を細かく分けると混乱するので、慣れるまでは1つずつ分けていきます。
- ③ルールに従って集計します  
→それぞれの数を数えたら、まとめます。  
記録用紙に分け方が例示されているので、これに従って集計します。

## レジンペレットって？

レジンペレットは、2～6mmの樹脂で、ペットボトルなどの原料です。水に浮くので、ごみが集まる場所で見つかります。鳥や魚がエサと間違えて食べ、死ぬことがあります。



## 集めたごみはどうするの？

### ①ごみの回収依頼は早めに連絡

→調査する場所を管理している市町の担当課に早めに連絡し、ごみの回収を依頼します。市町により、手続きが違うので、必ず確認を！



調査は休日に行うことが多いので、回収は早くても翌日で、数日後になることもあります。担当部署に負担をかけないように、早めに連絡を取りましょう。

### ②ごみの取り扱いと近隣への配慮

→ごみの分別方法、集積場所、粗大ごみの扱いを教えてください。当日は、教えてもらった方法で分別し、指定された場所へごみを出します。近くの住民に配慮し、ごみはきちんと片付け、「市・町に連絡済みです」などのメモを貼っておきましょう。カラス対策として、袋の口はしっかりと閉めておきましょう。

### ③事後連絡

→調査の翌日には、収集の確認も併せて、市町に報告しておきましょう。

\*手順および準備の詳細は、ビーチクリーンアップ関西事務局ホームページ (<http://www.page.sannet.ne.jp/kfuru/manual1.html>) を参照してください。



# 記録用紙の記入方法



収集した漂着物を、記録用紙に従ってチェックします。どのように記入していくのが、簡単に紹介します。

最後に漂着物をまとめる時、どのように分別するのか、その**分別区分**をあらかじめ記入しておきます。調査票を印刷する前に記入することをお忘れなく！

## 表面

漂着物調査記録用紙（その1）

分別	漂着物名	合計	分別	漂着物名
	プラスチック・ビニール類			苗木ポット
	破片			注射器
				紙おむつ
				6パックリング（6本の缶をまとめる輪）
	タバコのフィルター			その他（具体的に）
	使い捨てライター			金属
	シート（1㎡以上のもの）			破片
	シートや袋の破片			
	袋、パッケージ類			缶
	スーパー・コンビニの袋			飲料缶

あらかじめ記載されている漂着物以外に収集したものは、各素材ごとの「その他」の項目に「**どんなものだったか**」を具体的に記入します。**数も忘れずに記載**しましょう。

漂着物ごとに収集した数を記録します。たくさん収集したものは、手分けをして数えるので、空白欄に**担当者ごとの数**を記入し、**合計欄**に総合計を記入しましょう。

## 裏面

調査場所の情報を記載します。必ず記録しておきましょう。

調査に関する特記事項

実施日時： 年 月 日（ ） : ~ : 所要時間（ ）

実施場所：

採集範囲：

参加人数：

記録者：

その他、気づき：

調査を実施した日時以外に、実際の採集に要した時間（所要時間）を記入しておきましょう。

海岸線の距離にして、どの程度の長さを調査したのかを記入します。特定の面積（例：10m四方など）を調査した場合には、その面積を記載しましょう。

調査を終了した感想や気づきなどを記入しましょう。